

サービ斯拉ーニングで学んだこと

社会福祉学部社会福祉学科 2年 伊地知正健

活動先：NPO 法人 東海市在宅介護家事援助の会 ふれ愛

ゼミ：村上 徹也 先生

私がサービ斯拉ーニング活動をさせていただいた、NPO 法人「ふれ愛」は、グループホームと、デイサービスの両方を行っており、私たち学生はグループホームで活動をさせていただいた。私たちは6日間活動をさせていただき、午前はレクリエーションをする時間を毎回設けてもらい、いろいろなレクリエーションを行った。私の出身である鹿児島県徳之島の方言講座やかると作り、風船バレー、ビンゴゲームや輪投げ大会などを行った。レクリエーションだけでなく、お茶を飲みながらの談話など、利用者さんと接する機会が多くあり、さまざまな発見や感情を抱くことがあった。

私はサービ斯拉ーニングを行ったことによって、色々なことを学び気づくことができた。サービ斯拉ーニング活動を行うまでと、行ったあとでは全く違い大きく成長できたと感じる。成長できたという面では、初対面でも人の顔をしっかり見て話すことができるようになった。気づいた面は、当たり前のことだが、活動先には利用者さんそれぞれで全く性格も違い、最初は戸惑うことがとても多かった。だが、しっかり利用者さんとのコミュニケーションを大切にして、接していけば利用者さんの性格などもわかってきて戸惑う部分も段々と少なくなっていく。その点においては、やはり積極的に利用者さんに接していくことは大きく重要なことなのではないかと、再確認することができた。そして、利用者さんに対して、物事を伝えるときは伝わりやすくする工夫も大切だと感じた。大きな声で、はきはきと喋ることや、伝わりやすいように少しでも工夫をすることは当たり前でできなければならない、と痛感させられた。レクリエーションを通してでも、レクリエーションを成功させることばかりを考えてすぎてしまっていた。レクリエーションをするときは、利用者さんが興味をもつていただけるような説明が大きく重要だと、感じさせられた。私たちはその肝心な説明を怠ってしまい、利用者さんがあまり乗って来てくれないことがあった。利用者さんの目線に立って一度、リハーサルを行っておけばよかったと反省もあった。それ以外のことでも、レクリエーションをうまくこなすことばかりを考えすぎて、あまり利用者さんとの「接し方」という部分ではよい学びはできなかったと感じた。だが職員の方がフリータイムのとき、利用者さんとの会話のアドバイスなどを教えていただき、それをうまく実践することはできた。私は、利用者さんとの会話やちょっとした遊びに精一杯になり過ぎて、あまり職員さんの姿勢や態度を見ることができなかった。私は職員さんが求めているものを全く感じ取ることができなかったと感じた。私にはまだまだ課題が多くあると感じた。自分の問題点、課題を真摯に受け止め見つめ直すことが重要だと考えた。サービ斯拉ーニングを振り返ると、最初はどう接してよいのか全く分からず苦痛に思

うことも多々あった。しかし、職員さんのアドバイス、利用者さんのほうから接していた
だき、その不安感も徐々に消えていった。前半は、きつい部分もあったが、後半は楽しく
活動を行うことができた。利用者さんとの会話は、自分のなかでとても財産になることが
多くあった。これから施設に足を運ばせていただく機会があれば、怖がらずに自分から接
する一步を踏み出して、積極的に話しかけていきたい。職員さんの姿勢を見ておくのも重
要だと私は感じる。利用者さんのなかで言葉づかいが少しきつめの方がいて、きつめの言
葉を他の利用者さんに使っていたときに、私たち学生は怖がって、注意することも、何も
言うこともできなかった。しかし職員さんはその場でしっかり注意していた。職員さんは
そのとき私たちに、「悪いことをしたならしっかりその場で注意しなければ意味がない。」
とアドバイスしていただいた。その言葉が今も印象に強く残っている。他にも活動を通し
て利用者さん同士のケンカも目の当たりにする機会があった。職員さんはその時も動じる
ことなく落ちついて片方の方を、「一緒に散歩しようか。」と連れ出して場を沈めていた。
良いことをしたら一緒に喜ぶ、悲しいことがあったら一緒に悲しむ、悪いことをしたらは
っきりと指摘する。そのメリハリをつけること、一緒に一喜一憂することも大きく大切な
ことだと感じた。私のなかでサービスラーニングの活動は大きな糧になると強く感じた。

私が活動を通して見えてきた地域課題は地域との交流だ。活動先の利用者さん達は活動
した6日間、毎日、口々に「私たちはこの鳥かごに閉じ込められてどこにもいけない」と
言っていた。私は、この言葉を聞いたとき、とてもショックだった。私はもっと地域活動、
祭りなどに、利用者さんを参加させられないのか考えた。しかし、もっと地域が認知症の
方々への理解を深めるべきだと私は考えた。施設見学などの活動を行い、地域の方々の間
違った理解を変えていくべきだと考えた。もっと地域の方々が受け入れる体制を作ってい
けば、もっと利用者さんの方々は、地域活動に参加できると感じた。

現代の世の中の地域問題で私は、災害に対する安全性を向上する支援が大切だと感じた。
私の地元でもそれが大きく重要だと痛感させられた。私の地域の地域で災害が起きたとき
に避難する場所などの理解の調査をしたところ、半分以上の方が避難場所を把握していな
かった。私はこの状況を知りとても怖くなった。地域全体で災害に対する危機感が全くな
いことは早急に改善しなければならぬと強く感じた。災害時の迅速な避難経路を教える、
防災訓練を日本全国、それぞれの地域で取り組まなくてはならない義務だと私は考える。
地域の大きなイベント、盆祭りやクリーン作戦など地域の方が多く集まる場所でもっと、
災害に対する危機感をあおるべきだと強く感じる。そして事故などが発生したときの迅速
な救急活動も地域全体で取り組んでいくべきだと私は考える。私の地域の地域では若者が
とても少なく、その若者も次々に、都会に出て行ってしまふ。このままでは私の地元はど
んどんさびていってしまう。私は日本福祉大学で学んだことを地元を持ち帰り、地域を活
性化させていきたい。そして地域だけでなく島全体を活性化させていきたい。それが私の
目標であり私を育ててくれた地域の恩返しだと考える。